

多高通信

第177号 令和2年 5月28日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

校長より 皆様へご挨拶



校長 牛来 生人

花曇りの空を眺めながら、令和2年度の始まりを待ち遠しく感じておりました。感染症と対峙しておられるすべての方々にお見舞いと敬意を表するものです。

生徒の活力が学校の生命力そのものであることを今更ながら感じていきます。今年度はこれからも感染症対策を念頭に置きながらの学校教育活動となります。特に本校は現場主義を掲げ、生徒が実際に日本全国に向いて調査・実習、研究発表を経験することを重視していることから教育活動の工夫が求められることとなります。残念ではありますが、このような年だからこそ自らの思索を深め、創造的思考に向き合う機会としたいものです。

臨時休校後の3月から教職員の意欲的な取り組みにより、一部の教科・科目でネット環境を利用した学習指導を行っております。通常の教育計画を支援するためのものであり、家に留まらざるを得ない生徒諸君が生活リズム・学習習慣を持続する手助けとなっていれば幸いです。情報機器環境が一律でないこと、教科・科目の特性等を考え合わせ、直ちに教育課程内の活動として扱うものではありませんが、学習の一つの手立てとしてとらえてもえらえらと思えます。ネッ



ト環境を利用するにあたっては、個人情報取り扱いの問題、ハラスメント・いじめの問題など、留意すべき点多々あります。本校はこれら情報モラルに関する点に注意しながら教育活動として今後どのような活用ができるか、模索しているところです。5月18日から学年ごとに臨時出校を開始しました。生徒の健康観察、課題の回収と指示、生徒個人写真撮影等を主として行っています。久々に学校で同級生同士が顔を合わせ喜んでる様子を見ることは私たちにとても救いです。6月1日の学校再開が円滑に行われるよう、準備を進めております。

誰もが経験のないこの状況にあって、何をすべきか、何をすべきでないか、慎重に検討し、少しでも充実した学校生活を提供できるよう努めて参ります。多賀城高校を支えてくださる皆様方の変わらぬご支援、ご協力に感謝申し上げます。ご挨拶いたします。

祝 45回生入学おめでとう!

4月8日、令和2年度入学式が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年のように体育館でご来賓や保護者の皆様のご参列を頂くことができません。各教室で新入生のみの参加で実施することになりました。

各教室での呼名・入学許可の後、放送による校長の式辞、新入生代表の宣誓が行われ、式は滞りなく終えることができました。

入学式後には臨時休校期間が続く、新たな友人たちとの出会いや、学習・部活動といった高校生活が先送りとなってしまいました。学校再開後、皆さんの元気な笑顔にお会いできることを願っています。



教室ごとに呼名を行いました



放送による新入生代表の宣誓

オンライン授業を始めました

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校期間、本校ではテレビ会議システム ZOOM や Google Classroom、動画配信サイト YouTube 等を利用してオンラインでの学習支援を行っています。県から指定を受け、県立高校で先駆けて実施しているため、他校から実施状況の視察にお越しいただいたり、県内の新聞社・テレビ局からの取材で取り上げて頂くこともありました。

全校で実施している Google Classroom では、生徒はクラスごとにメッス上に設定されたホームルームに所属し、毎朝の健康確認やオンラインでの学習支援に取り組んでいます。また、災害科学科の生徒は、所有している iPad を利用し、希望者を対象として ZOOM によるオンライン講習を行っています。

今後、臨時休校が解除となり通常授業に移行していきますが、通常授業と合わせて課外や補習等でも活用できるツールとして、さらにより良い運用の方法を模索していきたいと思えます。



YouTube にアップする講義動画を収録しています



ALT との英会話講座

生徒会長より 臨時休校に寄せて...

■3年5組 箭子 優羽(高砂中出身)
自粛要請が出されてから一カ月以上が経ちました。桜の花はあつという間に散ってしまい、気温は上がる一方です。

本来、今の時期は、新しい環境で、それぞれが目標をもって勉強や部活、委員会に励んでいる頃でしょう。特に三年生はすべての行事や活動に「最後」がきます。受け継いだ伝統、活動を先輩へ引き継ぐこともままならず、行き場を失った気持ちをごにぶつけければ良いのか分からないまま時間が過ぎてしまいました。

学校に行き、授業を受け、友人と話をします。当たり前の日々はとても有難いことだったのだと痛感します。大切なものは失ってかから気付くと言われますが、世界中がそうではないでしょうか。

直接的な接触を極力避けなければならぬ現在では、ビデオ通話や SNS を通じた交流が主流になってしまいました。会えない友人と連絡を取りあうことは、日々の楽しみの一つになりましたが、やはり、物足りないものがあります。臨時登校で久々に友人と会ったとき、嬉しい気持ちでいっぱいになり、会話が止まりませんでした。直接会ってする会話と機械を通しての会話は全く異なるものがあります。互いにマスクをしているものの、雰囲気や表情がよくわかり、何より元気なことが伝わってきます。感染拡大防止のためすぐ帰宅せざるを得ない状況で、もどかしくなりましたが、友人との時間は大切なものだと思えました。それと同時に、これまで失ったものは大きいことも実感しました。

ですが、得られたこともあつたはずですが。皆さんにとって、新型コロナウイルスの感染拡大に直面したからこそ得られたもの、気付けたことは何でしょうか。家族との時間、新しい趣味など、人それぞれにあると思います。私は当たり前のことに感謝する大切さを、身をもって実感できました。また、新たに、この状況を乗り越えた先に爆発的な楽しみがある、と考えるようになりました。日常のありがたさを実感した今、失った時間を取り戻したいという気持ちは皆さん一緒だと思えます。できなかったことは後になるほど、達成されたときに喜びを感じることが出来ます。この期間を通して募ったこの気持ちと、気付くことができた当たり前の日々の大切さ。この2つの思いを持ち続けることができれば、生活が元に戻ったとき、日常に感謝しながら、楽しい日々を過ごすことができると思います。人と人が心置きなく話し、食べ、笑いあえる日まで、今できなかったことを「梁しみ」という形で貯めこんでおきましょう。何年か経った後、あの時は大変だったけど、お陰でよい時間を過ごせたね」と笑顔で思い出せるような日になることを願っています。

ほとんどの県の緊急事態宣言も解除されました。あと少しです。気を緩めず頑張りましょう。

